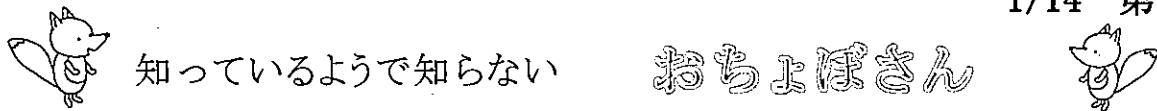


1/14 第91号



正式には「千代保稻荷神社」といって、京都の伏見稻荷神社・愛知の豊川稻荷神社とともに、日本三大稻荷の一つとして数えられています
御利益として知られているのは商売繁盛・家内安全で、企業関係者や自営業者の
参拝が多いのが特徴



月並祭(月末月始の縁日)

おちよぼさんは、月末月始に参拝される方が多くなります。これは、
「今月もよく商いができますように、ありがとうございました。来月もよろしくお願ひします」
という商売繁盛のお礼をするため。

初午(稻荷神社の祭日) 2月の最初の午の日 今年の初午は2月12日です

<由来>

(初午の日に)穀物の神様が稻荷山(伊奈利山)に降臨したとされ、「初午祭」が全国に広まりました。

これに加え、稻荷神の使いのキツネは家を守るという考えが結び付き、稻荷神社では豊作・商売繁盛・家内安全を祈願する初午祭が行われるようになりました

稻荷神とキツネの関係

古来、田の神は稻刈りが終わると山にのぼって山の神となり、春になると山から下りて

田の神になると考えられました。

キツネは春が来ると山から下りて田んぼのネズミを食べ、秋になると山に帰ることから、稻荷神の使いと考えられたのです。

神社のキツネは口に米蔵の鍵や鎌を加えています



いなり寿司の由来

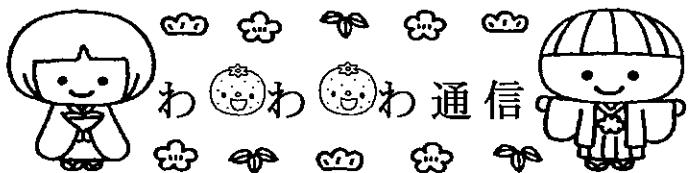
キツネの好物のネズミを備えるのは殺生になるということで、大豆でできた油揚げを

供えるようになり、稻荷神のおかけでもたらされた米(酢飯)を詰めるようになりました。

東日本では米俵に見立てた俵型で「いなり寿司」、

西日本ではキツネの耳に見立てた三角型で「お稲荷さん」と呼ぶ傾向が強いです。

初午の習わし?



1/14 第91号

江戸時代には、初午に寺子屋や私塾へ入門する習わしがあり、この日に習い事を始める風習がありました。何かを始めるきっかけにしてみては？

2月のわ●わ●わ広場は、左義長開催のためお休みです

次回（3/10）のわ●わ●わ広場は 春のお楽しみ会 です。

内容は ただいま検討中です。簡単な工作を考えています

